

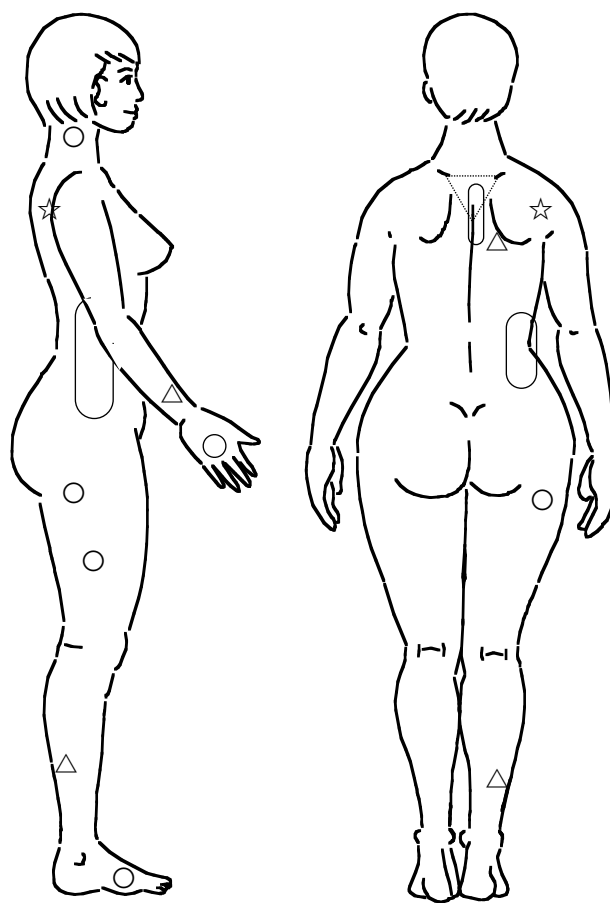
## [15] 少陽経病証（横の病）

(1) 基本的に：体の横側に主な症状が出て、ツボが深く、変わりにくい

- ① 体の横側面に関係のある病：脇痛、偏頭痛、耳鳴り、目眩  
「少陽之為病、口苦、咽乾、目眩也」
- ② 経過が長く、軽くても治りにくい病：喘息、アトピー、花粉症
- ③ 経過が長い病気は、体の横にツボが出やすい：慢性化した肩凝り、腰痛、瘀血証など
- ④ ツボの出る横側面が、体の上下で左右入れ替わることがある
- ⑤ 患者さんに時間が掛かること、ぶり返しも多いことを伝える

(2) ツボが出やすい所

- ① 手足の少陽経
  1. 手：外関、手甲3-4、2-3、中渚
  2. 足：足徹腹、風市、飛揚～外丘、足甲4-5
- ② 体の横側  
横頸中央、肩貞、痞根・腰徹腹、居髂
- ③ 手足の厥陰経  
内関、上曲沢、陰包、蠡溝
- ④ 古い病のツボ
  1. 体の左右境界（正中線付近）  
肩甲間部の華佗経、膻中、臍まわり
  2. 体の上下境界（横隔膜ちかく）  
膈俞、督俞、心下部、章門
  3. 体と手足の境目  
肩貞、居髂、足徹腹
- ⑤ その他
  1. 耳：翳風、完骨、風池
  2. 花粉症：合谷、上星、玉沈
  3. 喘息：肩甲間部華佗経、膻中



(3) 手順（経過が長いので慢性期や応急的予防処置が多い）

- ① 慢性期
  1. ツボを考慮して慢性期の型（+灸・灸頭鍼：例.喘息に肩甲間部華佗経の灸頭鍼）
  2. 置鍼+灸・灸頭鍼：骨空(3or4) →横向き(うつ伏せ) →仰向け →手指端の灸
- ② 応急的予防処置：横向きに寝て（左右入れ替わりのあるときは、途中で寝方を変える）  
手甲（→内関）→肩貞→痞根（→横腹）→腰徹腹→足陽(末端へ)（→足陰→頭散鍼→手甲）
- ③ 子供の喘息  
肩甲間部や命門～横腹の小児鍼と、胸椎3などの背骨揺すりや脇腹くすぐりなどが効果的。